

京都府および当院における肝炎ウイルス診療体制の構築

研究分担者：伊藤 義人 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 教授

研究協力者：瀬古 裕也 京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学 助教

**研究要旨：**非肝臓専門医を含む京都府下の京都府医師会に加盟している全医療機関に対し肝疾患の診療状況、専門医療機関への紹介の実態、ウイルス性肝炎治療に対する考え方についてアンケート調査を行った。自治体と無料肝炎ウイルス検査の契約を結んでいる非肝臓専門医は39%のみであった。肝炎ウイルス陽性患者を専門医療機関へ紹介しない医療機関ではその理由として、「非肝臓専門医でも自院で対応できる」との回答が最多で45%もあった。また、「治療が不要と考える」が25%、「患者が専門医療機関への紹介を断る」が25%との回答であった。超高齢者（85歳以上）・難治性合併症・認知症以外にも肝機能正常のため治療を行わないとの回答が12%にみられた。アンケート調査からは肝炎ウイルス陽性患者の約75%は治療を受けていると推察されたが、回答率が低く、肝炎治療に関する意識が低い可能性も危惧された。早急に解決すべき課題としては、肝機能正常患者に対する治療の勧奨と、発癌リスクの高い高齢者において画像検査などによる肝がんサーベイランスである。拠点病院と京都府が連携し京都府医師会に強く働きかけ、非肝臓専門医へのセミナーの実施、京都府薬剤師会など医療従事者に対する肝疾患コーディネーター制度を充実させることで、一体となった京都府の肝疾患診療連携体制を早急に確立する必要がある。

#### A. 研究目的

本研究は京都府において非肝臓専門医から肝臓専門医への患者紹介が効率的に行われない原因となる障壁を明確にし、それを解決することを目的とする。

そのために、まず、京都府の地域の特性にあわせた効率的、効果的な肝炎対策運営を行うための資料を作成し、京都府に適した診療連携体制を確立する。さらに、最終的に我が国の肝炎ウイルス陽性者の受診率の向上と肝炎患者の重症化の予防に繋げる。

#### B. 研究方法

京都府・京都府医師会・京都府立医科大学（肝疾患診療連携拠点病院：拠点病院）の三者間の協力のもと、非肝臓専門医を含む京都府内の京都府医師会に加盟している全医療機関に対し肝疾患の診療状況、専門医療機関への紹介の実態、ウイルス性肝炎治療に対する考え方についてアンケート調査を行った。

（倫理面への配慮）

アンケートは匿名、非公開とし医療機関が特定されないよう配慮した。

### C. 研究結果

京都府内の京都府医師会加盟全医療機関（非肝臓専門医を含む）に対して、京都医報・ゆう広報誌（折り込み）を用いて添付のアンケートを配布した。実施期間は 2018 年 12 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 カ月間で、アンケートの配布数は京都府内の 2155 医療機関とした。アンケートを各医療機関に送付し、その結果を FAX により拠点病院に送付することとした。アンケートの回収率は 5%（101/2155）であり、そのほとんど（94/101）が、非肝臓専門医からのものであった。

自治体（京都府および京都府下の市町村）と無料肝炎ウイルス検査の契約を結んでいる医療機関の割合は 41%、結んでいない医療機関の割合が 44%、不明が 16%で、非肝臓専門医では契約している医療機関が 36%のみであった。

通院中の患者数は B 型肝炎で「10 名程度以上」が 11%、「数名」が 58%、「無し」が 21%であり、C 型肝炎では「10 名程度以上」が 17%、「数名」が 51%、「無し」が 15%であった。

肝炎ウイルス陽性患者を必ず専門医療機関へ紹介している医療機関は 50%で、陽性患者を専門医療機関へ紹介しない医療機関では、その理由として、「非肝臓専門医でも自院で対応できる」との回答が最多で 45%もあった。また、「治療が不要と考える」が 25%、「患者が専門医療機関への紹介を断る」が 25%あり、少数ながら 5%

では「保存的治療法で十分である」との回答であった。

「患者の予後に影響しないので紹介が不要と考えられる肝炎ウイルス感染者」に該当すると考えられる感染者として、超高齢者（85 歳以上）が 36%、難治性合併症が 16%、認知症の患者が 22%、施設入居者が 9%、アルコール依存症患者が 6%との回答が医療機関からされ、肝機能正常のため治療を行わないとの回答も 12%にみられた。

年齢にかかわらず専門医療機関に紹介する医療機関は 47%で、70 歳まで紹介するが 7%、75 歳までが 9%、80 歳までが 26%、85 歳までが 12%であった。

### D. 考察

B型肝炎・C型肝炎に対する抗ウイルス療法は画期的な進歩を遂げ、薬物治療介入により肝硬変症や肝がんへの進展を防ぐことが比較的容易な時代となった。さらに、血液検査によるリスク評価やCT・MRIなどの画像診断を組み合わせることにより、効率の良い肝がんのサーベイランスが可能となった。

一方、肝炎ウイルスが陽性であることが判明しても肝臓専門医へ紹介されない、すなわち、非肝臓専門医（かかりつけ医）から肝臓専門医への連携が行われず抗ウイルス療法が導入されない症例や治療後の肝がんサーベイランスが実施されないことが問題となっている。

京都府においては非肝臓専門医であっても自院で治療を行うことが多いことがわかったが、ウイルス肝炎患者に対し京都府が

定める研修を受けたかどうかは明らかではない。一方、難治性合併症や高齢・認知症により治療を行わないと判断された症例が少なくなく、こういった症例の治療に関する京都府の治療指針の樹立が望まれ、適切な肝がんサーベイランスが行われているかどうかの確認が必要である。また肝機能正常のため治療を行わないと考える医療機関に対しては最新の DAA 治療などに関する正しい知識の啓蒙が必要と思われた。

具体的には、拠点病院としての京都府立医科大学と京都府が連携し京都府医師会に強く働きかけ、肝臓専門医のみならず非肝臓専門医へのセミナーを実施し、また、京都府薬剤師会など医療従事者に対する肝疾患コーディネーター制度を充実させることで、一体となった京都府の肝疾患診療連携体制を早急に確立する必要がある。

#### E. 結論

京都府におけるアンケート調査からは、肝炎ウイルス陽性患者の約 75%は治療を受けていると推察された。しかし、アンケートに対する回答率が低く、肝炎治療に関する意識が低い可能性も危惧された。早急に解決すべき課題としては、肝機能正常患者に対する治療の勧奨と、発癌リスクの高い高齢者において画像検査などによる肝がんサーベイランスが適切に行われているかどうかの確認と考えられた。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### G. 知的所有権の出願・取得状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

特になし

平成 30 年 11 月 9 日

京都府内病院長 各位

京都府立医科大学 消化器内科 伊藤義人

## アンケート調査へのご協力について（お願い）

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より各種肝炎対策にご協力くださり、誠にありがとうございます。

近年、手術前などに行われた肝炎ウイルス検査（HBs 抗原、HCV 抗体検査など）で陽性であったにも関わらず、受検者に結果説明が十分に行われてないことが全国的に問題となっています。

そのため厚生労働省は、電子カルテによるシステムを利用する等により、受検者に結果を適切に通知することを求めています。京都府健康対策課および京都府肝疾患連携拠点病院（京都府立医大・消化器内科）では、京都府における肝炎ウイルス検査通知に関する現状を明らかにするため本アンケートを行うこととしました。つきましてはアンケートシートを添付いたしておりますので、ご協力いただきますと幸いです。

大変ご多用のところ恐縮に存じますが、12 月 31 日までに、アンケート用紙を FAX（075-251-0710）送信賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査については、他の目的に利活用しないことを申し添えます。

謹白

<お問い合わせ>

京都府立医科大学 消化器内科 瀬古裕也

TEL : 075-251-5519/FAX : 075-251-0710

E-mail : yuyaseko@koto.kpu-m.ac.jp

Q1. 先生のご施設では電子カルテを導入されていますか？

- ・導入している
- ・導入していない

Q2. Q1 で導入していない とご回答されたご施設にお伺いします。

- ・施設としては肝炎ウイルス検査陽性者拾い上げの取り組みを行っていない
- ・施設として電子カルテを利用しない肝炎ウイルス検査陽性者の拾い上げを行っている  
(具体的にご記載ください。

)

Q3. Q1 で導入している とご回答されたご施設にお伺いします。

電子カルテを利用した肝炎ウイルス検査陽性者の拾い上げの取り組みを実施されていますか？  
(複数回答可)

- ・実施している
- ・実施していない
- ・今後実施を予定している
- ・実施したいが方法が分からない
- ・電子カルテを利用しない拾い上げの取り組みを実施している  
(具体的にご記載ください。

)

Q4. 電子カルテを利用した肝炎ウイルス感染者拾い上げに関してご質問・ご要望などございましたらご記載ください。

(

)

ご協力いただき誠にありがとうございました。

平成 30 年 11 月 14 日

京都府内医療機関 各位

京都府立医科大学 消化器内科 伊藤義人

## アンケート調査へのご協力について（お願い）

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より各種肝炎対策にご協力くださり、誠にありがとうございます。

現在全国的に非専門医に通院中の B 型・C 型肝炎患者の肝臓専門医受診率が低く、有効な治療に結びつかないことが懸念されております。京都府健康対策課および京都府肝疾患連携拠点病院（京都府立医大・消化器内科）ではこのような状況を改善するため本アンケートを行うこととしました。つきましてはアンケートシートを添付いたしておりますので、ご協力いただきますと幸いです。

大変ご多用のところ恐縮に存じますが、12 月 31 日までに、アンケート用紙を FAX（075-251-0710）送信賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査については、他の目的に利活用しないことを申し添えます。

謹白

<お問い合わせ>

京都府立医科大学 消化器内科 瀬古裕也

TEL : 075-251-5519/FAX : 075-251-0710

E-mail : yuyaseko@koto.kpu-m.ac.jp

